

三井住友建設株式会社 2024年3月期 第2四半期 決算説明会  
主な質疑応答

2024年3月期 第2四半期 決算について

Q 国内大型建築工事について現在の工事進捗状況を伺いたい。また今後、追加損失発生の可能性はあるのか伺いたい。

A 当該工事は現在高層棟躯体サイクル工程に入っており、修正工程通りに進捗している。現時点で見込まれる費用はこれ迄の決算に織り込んでいるが、今後発注する工事において物価上昇に伴う費用が一定程度発生する可能性はリスクとして認識している。当該工事に対する対応状況としては、本部直属の組織として特別対応チームを組成し、躯体工事の支援を行っている。また、支店直属の組織として特別対応部を設置し、現場に直結した組織として主に仕上・外構工事を担当している。

Q 建築の受注時利益率は向上してきているとの事だが、例えば総利益率8%程度を確保出来る水準となってきているのか。また、受注を抑制している状況だと思うが、国内建築の適正な繰越工事高の水準はどの程度だと考えているのか伺いたい。

A 当第2四半期における建築の受注時利益率は10.2%と改善している。新たに受注している工事については、物価上昇リスクを織り込んで受注しているため、下振れリスクは限定的であると考えている。

国内建築の適正な繰越工事高については現状の施工体制および2024年問題を鑑みると、2,000億円程度だと考えており、それに合わせ国内の受注量も一定程度抑制するが、利益を重視した受注にシフトすることで所定の利益はしっかりと確保していく。

Q 土木は非常に順調のようだが、今後、利益率の改善余地はまだあるのか。また、床版取替工事の完工高を今後年間200億円程度と計画しているが、例えば年間300億円水準にレベルアップさせる可能性はあるのか伺いたい。

A 土木について、上期は設計変更の獲得が進み、手持ち工事の利益率改善もあり、かなり高水準での決算となった。下期は現状ではまだ見込めない部分もあるため、利益率については抑え目としているが、利益率上昇の可能性に言及するとしたら、非常に期待している。床版取替工事については、設計および施工体制を勘案すると適正な規模だと考えているが、生産性向上の技術を適用することで拡大していくことは模索していきたい。

当社はプレキャスト工場を持っており、元々PC上部工に強みがあり設計スタッフを同業他社に比べ多く抱えていることもありアドバンテージがある。現在、全国で12のプロジェクトが動いているが、お盆・正月を避けた施工となるため、時期が非常に集中する状況となっており、これ以上の拡大は今のスタッフでは非常に厳しいと思っている。また、床版取替工事は一定の利益を確保出来ており、柱の一つとなっているが、一方で、少し長い目でみると新設のPC橋梁工事を一定程度獲得しないと今後の設計・施工技術の伝承を考えた際あまり良くない。バランスを取りながら舵取りしていきたい。

以上